

団体名：アジア太平洋トレードセンター株式会社
所管局：経済戦略局

資料 1

概 況

○平成28年度の経営状況について（金額の単位は百万円）

売上高	5,797	（前年度比	＋118）
営業利益	1,613	（前年度比	＋9）
当期純利益	2,299	（前年度比	＋868）

入居率 平成28年度末現在 全体85.6％（オフィス81.6％、商業83.3％）
（平成27年度末現在 全体86.1％（オフィス81.8％、商業85.9％））

○平成28年度決算

（１）前年度決算比（金額の単位は百万円）

	28年度決算	27年度決算	増減	増減説明
売上高	5,797	5,679	118	賃貸収入（＋10）、貸館収入（＋52）、水道光熱費売上（＋17）、駐車場収入（＋15）
営業費用	4,184	4,075	109	修繕費（＋38）、広告販促費（＋69）、水道光熱費（▲32）、減価償却費（＋25）
営業利益	1,613	1,604	9	
税引前当期純利益	1,481	1,430	51	【営業外収益】雑収入（＋29）、【特別損失】固定資産圧縮損（＋6）
法人税等	204	0	204	繰越欠損金の使い切りによる法人税等の発生（＋204）
法人税等調整額	▲ 1,022	0	▲ 1,022	「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」改正による繰延税金資産の一括計上（▲1,022）※平成17年度の減損損失計上に起因する調整額
当期純利益	2,299	1,431	868	

（２）28年度予算比（金額の単位は百万円）

	28年度決算	28年度予算	増減	増減説明
売上高	5,797	5,738	59	賃貸収入（▲14）、貸館収入（＋53）、水道光熱費売上（＋11）
営業費用	4,184	4,214	▲ 30	業務委託費（▲37）、広告販促費（＋40）、水道光熱費（▲39）
営業利益	1,613	1,523	90	
税引前当期純利益	1,481	1,351	130	【営業外収益】雑収入（＋50）、【特別損失】固定資産圧縮損（＋8）
法人税等	204	201	3	
法人税等調整額	▲ 1,022	▲ 800	▲ 222	
当期純利益	2,299	1,950	349	

○平成29年度予算

（金額の単位は百万円）

	29年度予算	28年度決算	増減	増減説明
売上高	5,613	5,797	▲ 184	賃貸収入（▲25）、イベント売上金（▲52）※、その他収入（売上高）（▲74）※※直営催事の計上変更を含む（総額表示→純額表示）
営業費用	4,180	4,184	▲ 4	業務委託費（＋71）、イベント費用（▲59）※、減価償却費（＋21）、売上原価（▲61）※※直営催事の計上変更を含む（総額表示→純額表示）
営業利益	1,432	1,613	▲ 181	
税引前当期純利益	1,268	1,481	▲ 213	【営業外収益】雑収入（＋95）、【特別損失】固定資産圧縮損（＋137）
法人税等	125	204	▲ 79	
法人税等調整額	19	▲ 1,022	1,041	
当期純利益	1,122	2,299	▲ 1,177	

団体名： アジア太平洋トレードセンター株式会社
所管局： 経済戦略局

課 題	これまでの取組及び成果		今後の目標及び取組
（課題） 1．経営改革による経営の自立化 ・特定調停に基づく確実な債務の返済 ・築 20 年を超えた施設の適切な建物保全及び魅力向上 ・収益改善（収益確保のためテナント入居の促進及び集客力向上） ・人材育成による社員の能力および組織力の向上	（これまでの取組内容） H28－H30 経営計画を策定し、経営の自立化、堅実な会社経営のための安定的な収益の確保に向けた取組の実施 ①収益確保 ・リーシング強化による営業利益の獲得 ②集客向上 ・集客装置となるテナントを誘致し、子どもを中心とした親子 3 世代の集客力を高める ③公共部門の活性化 ・出展者が満足する施設運営の構築 ・来館者等のニーズの高い企画展示の拡大 ・新たな IoT や RT（ロボットテクノロジー）の取り組み等による展示場の活性化 ④コスト削減 ・維持管理費等の経費見直し ⑤施設改修 ・計画改修の実施及び実施方法の効率化 ⑥人材育成 ・提案型研修制度の実施	（成果） ①収益確保 免税店の増床（8 月）、医療系倉庫兼事務所の新規入居（10 月）、めんたいパークの開業（11 月）等により新規収益を獲得 ＜賃貸収入（百万円）＞H28 前年比＋10（うち商業＋36） ②集客向上 めんたいパークの開業（11 月）、あそびマーレの増床（3 月）、その他イベント開催強化により集客力を高めた ＜来館者数（万人）＞H28 実績 692（前年比＋27） 参考：トミカ博（13 万人）、キッズ・ザ・サーカス（5 万人）、ブラレール博（9 万人）、あそびマーレ（28 万人） ③公共部門の活性化 ・エコプラザ：IATC（※）を開設し今後の展開に新しい切り口を付け加えることができた ※インダストリアル・オートメーション・テクノロジー・センター - 工場設備の自動化技術を学べるシステムインテグレーターの養成施設 ・エイジレスセンター：IoT、RT（ロボットテクノロジー）を活用した介護機器展示や電動車いす自動運転実証実験を実施 ・ODP（大阪デザイン振興プラザ）：若手デザイナー育成プログラム EXTENSION を開催 ＜出展社数（社）＞H28 実績 247（前年比＋4） ④コスト削減 電力会社の変更により電気代を削減 ＜水道光熱費（百万円）＞H28 実績 846（前年比▲39） ⑤施設改修 施設の安全性・快適性の向上を図った 自動火災報知機更新、配変電設備機器更新、他 ⑥人材育成 他施設の視察と情報交換による施設管理ノウハウの蓄積	（今後の目標及び取組） ①収益確保 ＜営業利益（百万円）＞ ・オフィス部門：H29 目標 2,312（前年比▲67） 市と大型店舗の賃料減額による賃料収入の減を一部改善するため大手不動産仲介業者との連携による大型区画の入居獲得 ・商業部門：H29 目標 382（前年比＋25） あそびマーレとめんたいパークの集客力を活用し主に親子 3 世代をターゲットとした店舗誘致による賃料収入の増と館内回遊性の向上 ・ホール部門：H29 目標 305（前年比＋ 1） 取引先とのネットワークを活用した貸館の新規顧客獲得とアフターフォローによるリピーター化、大阪観光局・地域連携等による MICE 案件の誘致、五輪開催による首都圏貸館需要の代替地提案 ②集客向上 あそびマーレとめんたいパークの広報強化、ウミエール広場での催事数増、ホール催事による賑わいの創出、SNS 投稿へのインセンティブ付与による口コミと動員の促進、時間帯・対象者別（平日と週末、就労者とイベント来場者等）のデジタルサイネージ活用による館内回遊性および消費行動の喚起 ＜来館者数（万人）＞H29 目標 695（前年比＋3） ③公共部門の活性化 エコプラザ：IATC ゾーンに人協働ロボットを導入して IoT、RT の取り組みを強化し、出展者増及びビジネス支援につなげる ODP：EXTENSION の PR 注力によりプログラム参加者数を増やし、卒業後も交流を継続することでネットワークを維持拡大し、将来の入居者を育てる ＜出展社数（社）＞H29 目標 261（前年比＋14） ④コスト削減 ・電気料金の契約見直しによる電気代の削減 ・入札等の実施による修繕費、業務委託費等の経費削減 ⑤施設改修 ・長期保全計画の実施：防災・誘導灯設備の更新、通路等共用部の改修等 ・快適性重視による C S 向上：共用部 LED 化、トイレ・授乳室の美装化等 ⑥人材育成 研修・自己研鑽による能力向上
2．市の政策実現の場としての役割を果たすことを通じて 団体の収益・集客の向上につなげる ・公設の展示場・インキュベーション活用による「大阪の成長戦略」に関連する分野の産業振興 ・MICE（コンベンション誘致等）機能強化 ・国際交易拠点としての海外経済交流の促進 ・咲洲地区における賑わい創出への寄与	・上記③と同様 ・周辺施設や大阪観光局との連携 ・海外企業等の誘致 ・咲洲地区を代表する大型イベントの開催	・上記③と同様 ・「咲洲 こどもフェスタ」（H28.11/3、5、6） 官民連携による咲洲発の大型イベント。約 95,000 人参加	・上記③と同様 ・周辺施設や大阪観光局との連携による MICE 案件誘致（連携する周辺施設の裾野を広げてパンフレットを更新） ・咲洲地区を代表する官民連携の大型イベント「咲洲 こどもフェスタ」開催（H29. 11/3～5） ・市事業 IoT・ロボット実証実験支援プログラム「AIDOR EXPERIMENTATION」への協力（IoT や RT（ロボットテクノロジー）関連事業者が実証実験をする場所の提供（平成 29 年度目標 6 件））